

## 第6回 第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会記録

●日時：平成28年7月12日（火）19：00～21：00

●場所：武蔵野市役所411会議室

●出席者（敬称略）：

<委員長> 小田 宏信

<副委員長> 大森 克徳

<委員> 梅田 彰、櫻井 勝實、町田 光司郎、

小松 由美、石井 かおる、三浦 香澄

<事務局> 武蔵野市環境部緑のまち推進課、国際航業（株）

### ●次第

1. 開会
2. 議事（1）第5回委員会振り返り
3. 議事（2）民有地の緑を支える活動
4. その他（1）日程等について
5. 閉会

### ●発言要旨

#### 1. 第5回議事要録について

- ①第5回の議事要録については了承した。

#### 2. 第5回委員会振り返りについて

- ①武蔵野市の今後の財政を考えると、高額所得者による税収の確保のために武蔵野のブランド力を守り高める必要があるのではないかと。ブランド力を高める緑化施策として、接道部緑化を重点的に進めるとよいのではないかと。緑化指導では接道部緑化に対する優遇制度を適用することで、接道部緑化の充実を図ることができる。また、大規模開発で整備される提供公園等の緑地についても、接道部に整備することでまちの魅力が高まる。
- ②景観まちづくりワークショップにおいても緑に関する意見が多い。まちづくり推進課と連携した支援策の検討が必要である。
- ③落ち葉感謝月間のような一定期間のイベントは、緑の普及啓発に効果的である。また、落ち葉を収集して腐葉土をつくり、活用をコーディネートする仕組みができるとよい。
- ④アドバイザー等の組織化については市で見守りながら進める必要がある。

#### 3. 民有地の緑を支える活動について

- ①民有地の緑を支える活動において、メンバーの固定化、高齢化が課題となっている。緑のサポート制度による緑の街並み高め隊の活動等においても、継続した活動ができるような仕組みの検討が必要である。

- ②行政をサポートする包括的な支援組織ができることで、活動の自由度が高まり、市民の多様なニーズにも対応しやすい。また、NPO法人が活動団体の事務局となることで、活動参加者は気楽に参加できるなどの利点もある。
- ③支援組織には行政もある程度主体的に関わり、資金面のサポートだけではなくバランスの良い人的なサポートも充実できるとよい。市内には多くの活動団体があり、多様な活動のハブとなる組織ができることで、市民の活躍の場の提供や活発な活動が期待できる。一方で継続した活動には予算措置が必要となるため、慎重に考える必要がある。
- ④支援組織について他自治体でも様々な取り組みが行われており、よい事例は取り入れていけばよいのではないかと。

## 5. その他について

- ①第7回委員会は8月22日に開催予定である。また、第8回委員会開催日について、各委員の予定を調整したい。